

2. 火山の概況

(平成 15 年 12 月 4 日 ~ 平成 15 年 12 月 10 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。桜島では噴火があった。

その他の火山については、樽前山では地震が一時的に多くなり、熱的活動も依然活発であった。吾妻山では一時的に地震が増加した。三宅島では噴煙活動が継続した。諏訪之瀬島では噴火があった。

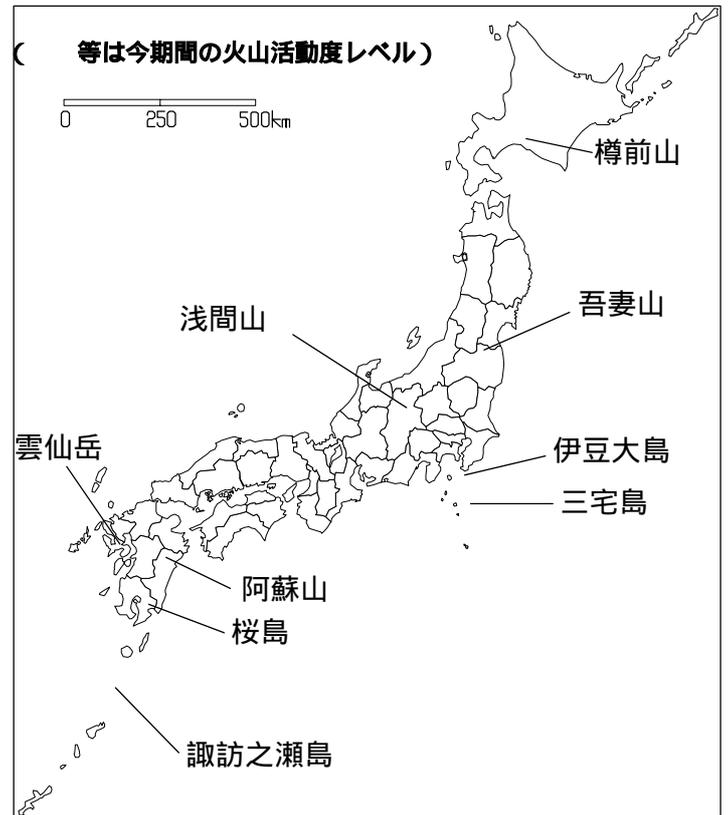


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山	伊豆大島	阿蘇山	雲仙岳	桜島	樽前山	吾妻山	富士山	三宅島	伊豆鳥島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
		レベル 記号													
50	12/ 4-12/10														
49	11/27-12/ 3														
48	11/20-11/26														
47	11/13-11/19														
46	11/ 6-11/12														

注1 記号の意味

- ：噴火した火山
- △：観測データ等に変化があった火山
- ◇：前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- ：その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2

本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

樽前山 [地震・熱]

4日 23 時頃から体を感じない微小な地震が増加し、5日 24 時までの回数は 141 回となったが、地震の多い状態は一時的で、6日以降の日回数は 0 ~ 2 回と落ち着いた状態で推移した。いずれの地震も樽前山ではよくみられる山頂の溶岩ドーム直下の浅部(海拔付近)で発生したものである。1日あたりの地震回数が 100 回を超えるような活動は、2001 年 8 月 12 日(111 回)以来である。この地震活動に関して、火山性微動の発生はなく、噴煙等の表面現象にも変化はなかった。

また、5日に実施した調査観測では、A 火口の温度は約 600 (前回 11 月 11 日は約 640)と、依然極めて温度の高い状態が継続しており、山頂部の熱的な活動は引き続き活発であった。

吾妻山 [地震]

9 ~ 11 日に一時的に体を感じない微小な地震が増加した。日回数は 9 日 6 回、10 日 16 回で、11 日は明け方までに 4 回発生したが、その後は収まっている。震源は一切経山(大穴火口付近)の地下の深さ数 km と推定され、ここでは 2001 年 12 月 24 日には日回数 86 回となる地震活動が発生している。

なお、この地震活動に関して噴煙活動等の表面現象に異常はなく、GPS による地殻変動観測にも特に変化はなかった。

浅間山 [地震・微動・熱・火山ガス] レベル：（やや活発な火山活動）

6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、徐々に回数が減ってきているものの今期間も1日あたり21~44回とやや多く観測された。また、振幅の小さい微動は4日に3回、5日に1回、10日に2回の合計6回観測された（前期間は6回）。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

8日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は約250トン/日で（前回（10月20日）は約200トン/日）、10,000トン/日を超える場合もあった4月頃までに比べると、その後は少ない状態が続いている。

伊豆大島 レベル：（静穏な火山活動）

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [噴煙・地震]

監視カメラによる噴煙の観測では、白色の噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上1,200mであった。

振幅の小さいやや低周波の地震は、5日01時台に10回、02時台に23回とまとまって観測され、当日の回数が59回となったのを最高に、1日あたり24~59回とやや多い状態で推移した。但し、これらの地震活動に伴ってその他の観測データに特に変化はみられなかった。

GPSによる地殻変動観測では、今年6月頃から再び島の収縮傾向を示している。

阿蘇山 [熱・地震・微動] レベル：（やや活発な火山活動）

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口内の状況は、9日に実施した現地観測によると、見かけ上の湯だまりの面積は約5割となっており、湯だまりの色は灰緑色で、湯だまりの中央部付近で噴湯現象が確認された。湯だまり表面の温度の最高は77と依然高い状態が続いている（前回の観測時（11月28日）は81）。また、南側火口壁の温度の最高も293と依然高い状態であった（前回の観測時は362）。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度の最高は火口縁上500mであった。

地震・微動活動の状況は、A型地震が17回（前期間8回）、B型地震が86回（前期間8回）と増加傾向がみられた。孤立型微動は、6~8日にかけて100回以下となり、期間の合計でも782回（前期間1,698回）と減少した。

GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 レベル：（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

桜島 [噴煙] レベル：（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火が1回発生したが、爆発はなかった（前期間は噴火・爆発なし）。今期間の噴煙活動は、灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,100m（灰白色）まで上がるのが観測された。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

諏訪之瀬島 [噴煙・降灰・微動]

期間中、爆発はなかった（前期間も爆発なし）。しかし、連続微動がしばしば発生し、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、期間を通して御岳火口から火山灰を上げていた。また9日には、集落（御岳の南南西約4km付近）で降灰があった。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 673 号 (1日2回発表) 火山観測情報第 686 号	4日 09:30 10日 16:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
阿蘇山	火山観測情報第 30 号	5日 14:00	火山活動がやや活発(孤立型微動が引き続き多い、中岳第一火口の熱的な状態が高い)。火山活動度レベルは2。